

平成 21年 5月 25日現在

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2006～2008

課題番号：18520445

研究課題名（和文） 英語ライティング指導におけるピアフィードバックの効果

研究課題名（英文） Effects of Peer Feedback in English Writing Instruction

研究代表者

広瀬 恵子（HIROSE KEIKO）

愛知県立大学・外国語学部・教授

研究者番号：40145719

研究成果の概要：ピアフィードバックを取り入れた英語ライティング指導を大学で継続的に行い、実際に学生がどのようなインタラクションを互いに行い、この経験をどのように捉えるのか、指導後英語ライティング力に向上がみられるのか、という観点からその有効性を調べた。ライティング力には統計上の有意差はなかったが、学生は総じてピアフィードバックを肯定的に捉え、学習者間に多様なインタラクションを生み出す協同学習であることが実証された。

交付額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2006年度	1,000,000	0	1,000,000
2007年度	1,000,000	300,000	1,300,000
2008年度	800,000	240,000	1,040,000
年度			
年度			
総計	2,800,000	540,000	3,340,000

研究分野：英語教育学

科研費の分科・細目：言語学・外国語教育

キーワード：ピアフィードバック、ライティング、英語指導、インタラクション

## 1. 研究開始当初の背景

## (1) 英語ライティング指導における peer feedback

学習者が互いに書いたものを読みあう peer reading を行ってコメントをしあう活動は、ピアフィードバック (peer feedback) やピアレスポンス (peer response) 等と呼ばれている。本研究では便宜上 peer feedback と呼ぶ。日本では、学習者同士によるグループ学習は、英語のスピーキング指導でよく用いられるが、ライティングの指導では従来あまり使われてこなかった。本研究者も関わった高等教育機関における英作文教育の国際比較調査 (Pennington, So, Hirose, Costa, Shing, &

Niedzielski, 1997) によると、peer feedback は日本の大学の英語ライティング指導ではほとんど用いられていないことが明らかになった。

## (2) 過去の peer feedback 研究

ライティング指導における peer feedback は、プロセスライティング理論、協同学習理論、ヴィゴツキーの「発達の最近接領域」の理論、インタラクションと第二言語習得等の、様々な理論から、その有効性が認められている (Liu & Hansen, 2002)。その教育上の価値も様々な点で認められている。しかし、一方で、問題点も指摘されている。

第二言語 (L2) のライティング指導において peer feedback は、プロセス重視の指導が盛んになる 1980 年代から主にアメリカで用いられるようになった。そして、peer feedback に関する研究は 1990 年代からみられるようになった。アメリカの高等教育機関で英語を L2 として学ぶ学生を対象とした先行研究では、欧米出身の学習者には効果がある一方で、教師主導の指導形態に慣れているアジア出身の学習者には効果があがらなかったとする研究がある (Carson & Nelson, 1996)。批判的なコメントを交換しあうことに慣れていない (日本人を含めた) アジアの学習者は、グループの和を重んじるが故に、最終的には個人の書く力の伸長につながる批判的な読みや feedback を互いにするのが不得手であるという観察もなされている。一般的に、学習者は peer feedback よりも、教師による teacher feedback の方を好むとする研究もある (Zhang, 1995)。Liu & Hansen (2002) は、peer feedback の一般的な問題として、ピアのコメントの不確実性、時間不足からくる表面的なコメント、コメントする際の不適切なインタラクション等をあげている。

このように、海外の peer feedback に関する先行研究の結果から、peer feedback には、使用する際に問題点や課題があることもわかっている。

### (3) 本研究を着想した背景・動機

本研究者は、学習者同士による peer feedback が英語ライティング指導に果たす可能性に早くから注目し、大学での英語ライティング指導に取り入れてきた。そして、その実践経験を基に、peer feedback の指導上の利点や留意点などを発表してきた (Hirose, 2001)。利点として、日本人英語学習者が実際に peer feedback の経験を積むことによって、学習者同士の学びあいが可能であることがわかった。さらに、学習者が互いに書いたものを読みあいコメントをする peer feedback は、読み手と書き手の双方向的なコミュニケーション活動である点で、書き手に読み手意識を植え付けるのに役立つことがわかった。書いたものに教師だけではなく (複数の) ピアの読み手から何らかの feedback を得る方法は、従来日本人英語学習者に特に乏しいとされている英語で書くことに対する意欲を高めることも期待できることが指導により確認できた。

最近では peer feedback はそれ程珍しくはなくなってきたが、ライティング指導における peer feedback の研究はまだ多くはなく、その有効性はまだ検証されたとはいえない。このような peer feedback を日本のライティング指導の場に広めるためには、実際に peer

feedback を継続的に実践し、その効果を検証する必要があると考え、以下 4 つの特色がある本研究を着想した。

- ① 英語ライティング指導に peer feedback を継続的に取り入れ、その指導効果を実証的に調べる。
- ② 英作文指導に peer feedback を取り入れた効果を、指導前・後に学習者が書いた英作文の比較だけではなく、学習者の英語ライティングに対する意識、態度の比較も行うことにより調べる。
- ③ peer feedback の方法一例えば、内容 (言語に関するものか、作文内容に関するものか)、peer feedback を一緒に行う学習者の数、peer feedback の媒体 (口頭か、書面か) 等一により、どのような peer feedback が効果的なのか、学習者自身が肯定的にとらえるのはどのような peer feedback なのかを探る。
- ④ 学習者同士が peer feedback でどのようなインタラクションを実際に行うのか、教室での peer feedback 場面をビデオ撮影して調べる。

本研究の独創性は、上記のような様々な観点から peer feedback の有効性を調べる点にある。本研究の結果は、今後の L2 ライティング研究だけではなく、我が国における英語ライティング指導に具体的な教育的示唆を与えることが期待できる。つまり、本研究は英語ライティング教育への応用を視野にいれた実践的な研究である。

## 2. 研究の目的

本研究は、peer feedback を英語ライティング指導で実際に継続的に用い、その指導効果を実証的に調べることを主目的とする。指導前・後の学習者の英語ライティング力の比較をするだけではなく、実際に学習者がどのような peer feedback を教室で行うのか、そしてその経験を踏まえ、どのような peer feedback が望ましいと考えるのか、を探る。具体的には、以下の 3 点を明らかにすることを目的とする。

- ① 日本人英語学習者 (大学生) はどのような peer feedback を肯定的にとらえるか。
- ② どのような peer feedback が、学習者の英作文力の伸びにつながるのか。
- ③ グループの最適サイズはどの位か。

英語ライティング指導における peer feedback の効果は、グループ編成や教師の指導の仕方によって異なると考えられる。例えば、読み手が、① 同性か異性か、② 親しい

か親しくないか、③ 英語力が同じか異なるのか（上位か下位か）等によって、feedback の中身が異なると思われる。さらに読んで feedback する作文が、① 何について書かれているか、② 英文がうまく書かれているか、③ 内容が面白いのか、等によっても異なる可能性がある。さらには、feedback をする際に、作文の言語と内容のどちらが学習者にとってしやすいのか、又、パートナーにはどのような feedback をして欲しいと思うのか、学習者の意識を探る。また、継続的に feedback を異なる読み手から得つつ、自分自身も異なる相手の作文に feedback をする経験を重ねることによって、① peer feedback 活動に対する学習者の意識、意欲、達成感等に変容がみられるのか、② 英語で書くことに対する意識が変わるのか、換言すれば、英語で書く意欲が高まるのか、③ 学習者の英作文力の伸長につながるのか、を調べる。

### 3. 研究の方法

本研究者の英語ライティングの授業(半期)において、ペアで行う peer feedback を取り入れた指導を継続的に行い、合わせて毎回教師による teacher feedback も行った。過去 peer feedback を行ったことのない大学生参加者に対して、以下の調査とデータ収集を行った。

- (1) 指導前調査
  - ① 英語ライティング力の測定
  - ② 英語で書くことに関する背景・意識アンケート調査
- (2) 指導中調査（データ収集）
  - ① 参加者が毎回授業前に書いた peer feedback に用いた英作文
  - ② 参加者が毎回授業中に書いた peer feedback sheet
  - ③ 口頭での peer feedback 場面（授業ビデオ撮影データ）
- (3) 指導後調査
  - ① 英語ライティング力の測定
  - ② 英語で書くことに対する意識アンケート調査
  - ③ 参加者の peer feedback 及び teacher feedback に対する意識アンケート調査

これらの各種調査結果及びデータ分析を基に、① 指導前・後の参加者の英作文力の比較、② 指導前・後の参加者の英語ライティングへの態度、意識の比較、③ 参加者の peer feedback 中のインタラクションの実態、④ 指導後の peer feedback に対する意識・態度を調べた。

### 4. 研究成果

#### (1) 研究の主な成果

① 指導前・後の英語ライティング力の比較  
同条件下で参加者が書いた英作文を、(本研究とは無関係の)複数のネイティブ話者の大学英语教師に採点をしてもらった所、指導前・後の評価点の間に、統計上の有意差はみられなかった。

② 指導前・後の英語ライティングに対する意識の比較

この peer feedback を取り入れたライティング指導は、参加者には英語力の向上に役立ったと捉えられ、英語ライティング力に関しては自信をつける上で有効性が認められた。

③ peer feedback 中の学習者間インタラクション

データは、教室内で毎時間参加者が書いた peer feedback sheet を用いて分析した。ビデオ撮影した口頭での peer feedback のデータは補助的に用いた。両データの中身には、共通点があった。参加者は、最初にパートナーが書いた peer feedback sheet を読みそれに基づいて口頭の peer feedback を始めていたからである。

分析の結果、参加者は、peer feedback において、互いの作文の多様な側面に多様な feedback を行っていることがわかった。具体的には、作文の内容、語彙、文法、パラグラフ等に関わる (a) 質問をする、(b) 感想を述べる、(c) 提案をする、(d) 関連する情報を提供する等。特に、作文内容に関する feedback を行っていることが多い。例えば、内容について関連する質問をする、知らなかった内容だったのでとても興味深く読んだ、といった読後の感想を述べる、等。授業で学んだ英文パラグラフ構成に関する feedback も多い。例えば、トピックセンテンスをもっと作文の内容に合うように specific なものに変えた方がよいといった提案や、time order を示すつなぎの語句が効果的に使われていたのでわかりやすかった、といった感想等。

peer feedback には上記のような共通点があった半面、feedback で取り上げる点には個人差もみられた。例えば、常に文法や語彙選択に焦点をあてる参加者がいる一方で、そうした点にあまり注意を向けずに内容に特化した feedback を行う参加者もいた。feedback を行うパートナーは毎回変わるので、換言すれば、参加者は書いた作文に対して、多様なフィードバックを受けていたことになる。

④ peer feedback に対する参加者の意識・評価

参加者は、peer feedback に対して、総じて

肯定的な捉え方をしていることが明らかになった。中でも特に、ピアの作文を読むことと、ピアが書いた自分の作文に対する peer feedback sheet を読むことが高い評価を得た。peer feedback を teacher feedback と比較すると、作文の内容に関しては peer feedback への期待の方が大きい反面、ライティング力を伸ばすためには teacher feedback を期待する傾向が浮き彫りになった。ピアの作文は誤りを見つけるといふより良い点を見つけようとしながら読み、さらに自分の作文に feedback をするピアからは、誤りの訂正を余り期待していないことが明らかになった。参加者が考える peer feedback の成否に影響を及ぼす要因としては、ピアの作文トピックや自分の作文を読んで feedback をするピアの態度（意欲）が挙げられ、ピア間の親密度や英語力はあまり関係がないとされた。

## (2) 得られた成果の国内外における位置づけとインパクト

本研究で peer feedback の有効性を多角的な観点から検討した結果、peer feedback が日本人大学生の英作文力の伸長に寄与することは実証されなかったが、学習者同士の多様なインタラクションを生み出す相互互惠の協同学習であることが実証され、学生自身もこの活動を好意的に捉えたことが明らかになった。

日本人大学生を参加者とした peer feedback の先行研究では、本研究のようにその有効性を縦断的に調べたものはほとんどなく、peer feedback を受けて書かれた作文が peer feedback を取り入れ、その結果、peer feedback 前と比べて向上しているか、短期的な効果が調べられている (Kondo, 2004)。また、長期間 (1年間) peer feedback を使った上で学習者がこの活動をどのように捉えたかを調べたとする研究 (Kashimura, 2007) においても、毎回継続的に授業で用いたわけではなく、学生は1年で3回しか peer feedback を経験していなかった。その結果、「2度と経験したくない」といった否定的な見方をした学生が多かった、と報告されている。さらには、実際に peer feedback において日本人学習者がどのようなインタラクションを互いにするのか調べた研究は見当たらない。

本研究は、日本の一大学での一実践例に基づいた小規模の研究であり、その結果を一般化することはできない。しかし、peer feedback の研究は、従来英語を L2 とする English as a Second Language (ESL) の環境で行われてきたことから、英語を外国語とする English as a Foreign Language (EFL) の環境の日本で得られた本研究の成果は、国外での L2 ライティング研究においても意義があると考えられる。

## (3) 今後の展望

本研究では、大学で半期間 peer feedback を取り入れた指導実践例を基に、その有効性を調べたが、別の学習者 (たとえば、異なる年齢層や異なる英語力レベルの学習者) に対しても同様の指導を行い、同じような肯定的な結果が得られるのかどうか調べる必要がある。さらに、その指導期間を延長して、その効果を検証する必要もある。そして、peer feedback が一般的にライティング指導において有効な学習手段になりうるためには、どのような前提条件が教室環境、学習者、指導者に必要なのか突き止めなければならない。同時に、さまざまな peer feedback の方法を教室で実践して、これをもっと豊かな方法にするのが望ましいと考える。

## 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 5 件)

- ① 広瀬 恵子 “Student-Student Written Interactions During Peer Feedback in English Writing Instruction,” *Annual Review of English Language Education in Japan*, 20, 91-100, 2009 査読有
- ② 広瀬 恵子 “Peer Feedback in L2 English Writing Instruction,” *JALT2007 Conference Proceedings*, 543-552, 2008 査読有
- ③ 広瀬 恵子 “University Students’ Perceptions of Peer Feedback: An Exploratory Study, 中部地区英語教育学会紀要 37, 299-306, 2008 査読有
- ④ 広瀬 恵子 “Japanese EFL Students’ Perceptions of English Writing Instruction Compared with Their Ideal Views,” *三浦省五先生退職記念英語教育学研究*, 33-52, 2007 査読無
- ⑤ 田中博晃・廣森友人・山西博之・広瀬 恵子 「教育現場に根ざした英語ライティング研究を目指して: 英作文の指導と評価」, *大学英語教育学会中国四国支部研究紀要*, 4, 55-72, 2007 査読有

[学会発表] (計 4 件)

- ① 広瀬 恵子 「ライティング指導におけるピアフィードバック-学習者はどうフィードバックしあうか-」全国英語教育学会東京研究大会、2008年8月10日 昭和女子大学
- ② 広瀬 恵子 “Cooperative Learning in English Writing Instruction Through Peer Feedback” 国際協同教育学会創立 30 周年記念大会 (Cooperative Learning in Japan and the World)、2008年6月8日 中京大学
- ③ 広瀬 恵子 “Peer Feedback in L2 English

Writing Instruction”全国語学教育学会  
(JALT) 33<sup>rd</sup> International Conference、  
2007年11月23日 国立オリンピック記念青少年総合センター

- ④ 広瀬恵子「英語ライティング指導における Peer Feedback—学習者の視点から—」  
中部地区英語教育学会、2007年6月24日 三重大学

[その他]

- ① 広瀬恵子『英語ライティング指導におけるピアフィードバックの効果』(研究成果報告書)愛知県立大学長久手キャンパス図書館に所蔵
- ② 広瀬恵子制作 DVD 「ピアフィードバックを取り入れた英語ライティング指導」  
大学英語教育学会 2009年度第48回全国大会 2009年9月「私の授業」発表予定

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

広瀬 恵子 (HIROSE KEIKO)  
愛知県立大学・外国語学部・教授  
研究者番号：40145719

### (2) 研究分担者

### (3) 連携研究者